

氷川神社  
社報 第二十九号

# 武蔵一宮



3月26日(日)  
3月27日(月)  
3月28日(火)

神社を学ぼう  
神社を学ぼう  
神社を学ぼう

神社DAY



当社の公式Instagramとnote(ノート)では民俗学者山崎敬子氏の文章に写真家の工藤裕之氏の写真を加えたものを氷川風土記として連載しております。日曜日を基本として配信し、令和6年3月24日に200回の節目を迎えました。

- 第一〇一回 絵馬  
 第一〇二回 鎮花祭  
 第一〇三回 さくら  
 第一〇四回 ササノオノミコトと祓いの心  
 第一〇五回 天之冬衣神  
 第一〇六回 祝子祭  
 第一〇七回 鳥居とコクーン(繭)  
 第一〇八回 古武道  
 第一〇九回 祇園信仰  
 第一一〇回 道饗祭  
 第一一一回 ササノオノミコトの子孫神たちと  
 仏教との繋がり  
 第一一二回 夏越の大祓  
 第一一三回 茅(ちがや)  
 第一一四回 大宮の麦  
 第一一五回 水川丸  
 第一一六回 ササノオと自然災害  
 第一一七回 ホタルの伝説  
 第一一八回 水川神社と祭政一致の詔  
 第一一九回 東游  
 第二〇回 葛飾北斎とササノオノミコト  
 第二二一回 菊  
 第二二三回 ササノオとイナダヒメの  
 間に生まれた神様  
 第二二四回 稲田姫命と水害  
 第二二五回 敬老の心  
 第二二六回 水川神社と平安時代
- 第二二七回 日本酒  
 第二二八回 稲  
 第二二九回 撰社と末社  
 第二三〇回 太鼓と橋  
 第二三一回 神嘗祭  
 第二三二回 水川神と水川明神  
 第二三三回 猪目(いのめ)  
 第二三四回 ご朱印の話①  
 江戸時代の水川神社  
 第二三五回 ご朱印の話② 大祝  
 第二三六回 新嘗祭  
 第二三七回 大湯祭前斎  
 第二三八回 百味膳と福種銭  
 第二三九回 見沼の伝承  
 第二四〇回 文豪が愛した大宮  
 第二四一回 ササノオノミコトと剣  
 第二四二回 課題婚と須佐之男命  
 第二四三回 天孫降臨とササノオノミコト  
 第二四四回 節分祭と的行事  
 第二四五回 八雲紋と須佐之男命  
 第二四六回 としごいのまつり  
 第二四七回 江戸時代の水川信仰  
 第二四八回 スギ  
 第二四九回 郷神楽  
 第一五〇回 神主さんと神社を学ぼう!  
 第一五一回 ササノオノミコトと大阪万博  
 第一五二回 鎮花祭  
 第一五三回 雅楽の景色
- 第一五四回 蛭(前編)  
 第一五五回 蛭(後編)  
 近代の芸術家たちと蛭  
 第一五六回 例祭の変化と走り馬の儀  
 第一五七回 武道の話① 嘉納治五郎  
 第一五八回 水川神社と武道の話②  
 今武蔵と刀  
 第一五九回 道饗祭  
 第一六〇回 舞殿  
 第一六一回 水川神はたる鑑賞会  
 第一六二回 須佐之男命への信仰  
 第一六三回 夏越の大祓  
 第一六四回 茅  
 第一六五回 出雲とササノオノミコト  
 第一六六回 ヤマトタケルと古代日本  
 第一六七回 須佐之男命と楠  
 第一六八回 明治元年から今日まで  
 第一六九回 例祭と近代の勅祭社  
 第一七〇回 危機を乗り越えてきた水川丸  
 第一七一回 料亭文化と水川神社  
 第一七二回 水川神社と南極観測  
 第一七三回 ササノオノミコトと鉄  
 第一七四回 氏子と一体のお祭り  
 「朝まんじゅう、屋うどん」  
 小麦文化  
 第一七五回 祝日としての敬老の心  
 第一七六回 秋分祭  
 第一七七回 北斎の弟子が描く  
 ササノオノミコト
- 第一七八回 抜穂神事、稲穂と感謝  
 第一七九回 大宮見沼と蛭  
 第一八〇回 隠れた場所にある八雲紋  
 第一八一回 観月雅楽演奏会  
 第一八二回 隠れた場所にある八雲紋  
 〓 回答〓  
 第一八三回 明治節と明治祭  
 第一八四回 新嘗祭と敬神講社大祭  
 第一八五回 御朱印にみる明治時代の大宮  
 第一八六回 大湯祭と前斎  
 第一八七回 自然の恵みと百味膳  
 第一八八回 蘇民祭とササノオノミコト  
 第一八九回 おみくじ  
 第一九〇回 神々と心  
 第一九一回 元始祭と太安万侶  
 第一九二回 時を告げる音色  
 第一九三回 節分  
 第一九四回 的行事  
 第一九五回 ササノオノミコトへの  
 信仰と伝承  
 第一九六回 蘇民祭と蘇民将来  
 第一九七回 祈りと感謝と祭政一致  
 第一九八回 浦安の心  
 第一九九回 江戸時代の水川信仰  
 第二〇〇回 これまでの二千五百年、  
 これからの二千五百年。

## 祭事暦

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

一月 一日	歳旦祭
二月 二日	日供始祭
三月 三日	元始祭
七月 七日	昭和天皇遙拝式
十五日	献詠祭 (兼題 和) 成人祭
二月 一日	月次祭
三月 三日	節分祭
七月 七日	的の神事
十一月 十一日	紀元祭
十二月 十二日	初午祭(稻荷神社)
十五日	献詠祭 (兼題 紅梅)
三月 十七日	祈年祭
三月 二十三日	天長祭
三月 十五日	月次祭 献詠祭 (兼題 早蕨) 郷神楽祭
三月 二十日	春分祭 皇霊殿遙拝式

## 春迎えの神事 — 節分 —

節分は本来、四季の移り変わりの事を指しましたが、暦上の初日である立春の前日が、冬から春に変わるいわゆる大晦日の日として行事が行われるようになりました。宮中では大晦日の夜に、中国大陸から伝わった、見えない鬼を方相氏が駆逐する追儼が行われましたが、この方相氏は黄金で四ツ目の仮面を被っていた事から平安時代には鬼と見做されるようになりました。この追儼の行事が追儼祭として諸国の寺社で行われるようになり、民間に定着していきました。

日本で太陽暦(新暦)が用いられたのは明治六年の元旦(旧暦の十二月三日)からでした。百五十年が経ちますが、旧暦の考え方は大切に受け継がれています。節分は旧暦の正月元旦から七日までの間に当たる事が多いため、古くから正月と節分とが同義に用いられてきました。尚、閏年では節分が旧正月の年内に来る事もあります。令和六年の旧正月は二月十日でした。

当社では、午前九時から節分祭が行われ、祭典中には弓の弦を鳴らして災厄を祓う鳴弦の儀が行われました。その後、神職二名により「福は内、福は内、鬼は外」の掛け声とともに舞殿より福豆が撒かれました。



本年の撒豆式  
(旧陸奥部屋・時津風部屋力士)



昭和30年代の撒豆式の特別年男  
時津風部屋、元小結の若葉山関(中央)

また本年は撒豆式が四年ぶりに行われました。長らく陸奥部屋の力士の皆様が御奉仕頂いて参りましたが、陸奥親方の定年により部屋が閉鎖される事になり、在籍力士の皆様は時津風一門の部屋に移られました。水川神社と陸奥部屋の御縁は大宮出身であった若葉山関が在籍した双葉山道場が大宮に道場を構えていた事に始まります。双葉山道場は、時津風・立田川・陸奥部屋と継承され御縁が続いております。今後の皆様のご更なる御活躍をお祈り申し上げます。

社頭往来

正月三が日

令和六年の正月は穏やかな陽気に恵まれ、一日は約九十九万人、二日は約五十万人、三日は約六十万人で、三が日の初詣参詣者数は約二百万人でした。



正月の恒例行事

一日には三の鳥居付近にて大宮鳶職組合による大宮若鳶のはしご乗りが、二日、三日には第一駐車場に埼玉県赤十字血液センターの献血バスが運行、三日には舞殿にて大宮能楽研究会による謡初めが行われました。



正月特別紙朱印は一月一日より授与を開始、準備分の二万枚は一月十二日に終了致しました。また、干支の土鈴や一刀彫、箱型の御力守や干支絵馬(大・小)を限定で授与しました。

正月特別紙朱印 正月限定守



一月十一日、氏子総代・評議員約八十名参列のもと新年の初祈禱祭を行い、皆様の無病息災と御活躍を祈願致しました。

氏子総代初祈禱祭



防災訓練

一月二十三日、大宮消防署の指導のもと、放水や消火器を用いた消火訓練、避難訓練、負傷者搬送訓練、文化財搬出訓練などを行いました。また大宮ブロック消防団及び大宮消防署職員による火災防御訓練などを行いました。



2024 Miss SAK E

埼玉大会開催

二月九日、Miss SAK E埼玉大会が呉竹荘で行われ、南家果林様がグランプリに輝きました。2024 Miss SAK E AKE埼玉は埼玉県の魅力を、地酒を通して発信し、地域活性化や観光誘致など様々な役割を担うアンバサダーです。



グランプリ受賞 南家果林様



ファイナリストの6名様 境内の酒樽前にて

春の婚礼展開催

二月十二日、春の婚礼展としてアイテム展示会並びに新規御相談会及び模擬結婚式を執り行いました。尚、新規相談会のみは一月二十日、三月三十日にも行っております。



大宮アルディージャ必勝祈願

二月十四日、大宮アルディージャの佐野秀彦代表取締役社長、長澤徹監督が玉串を捧げ、今期の必勝を祈願しました。



二月十八日、境内の稻荷神社にて鳥居の奉納をされた松本雄大様御家族様参列のもと、奉納奉告祭を執り行いました。

稲荷神社鳥居奉納奉告祭



写真提供：大宮アルディージャ

**埼玉の神社御朱印展**

三月一日より三月三十一日まで、御本殿の西側待合所にて埼玉県神社庁主催の「神主さんと神社を学ぼう！」の一環で「埼玉の神社 御朱印展」を開催致しました。



**埼玉武蔵ヒートベアーズ  
必勝祈願**



©埼玉武蔵ヒートベアーズ

**氷川の社ゆうすいてらす地鎮祭**

三月十日、独立リーグの埼玉武蔵ヒートベアーズの角晃多代表取締役社長、西崎幸広監督、町田隼乙キャプテンが玉串を捧げ、今期の必勝を祈願しました。三月十三日、お手洗いや休憩所などの多目的施設「氷川の社 ゆうすいてらす」建設にあたり地鎮祭を執り行いました。



**春の特別紙朱印「鎮花祭」  
春の限定お守り「咲守」**

三月十六日より春の特別紙朱印「鎮花祭」、また春の限定お守り

「咲守」の授与を開始致しました。



**新陰流正伝上泉会奉納演武**



三月十七日、正式参拝の後、舞殿にて新陰流正伝上泉会会長

島正紀氏他会員により演武が奉納されました。

**埼玉県煎茶道連盟 献茶式**

三月二十日、埼玉県煎茶道連盟の献茶式が行われました。勅使館及び呉竹荘では春の茶会が開催、さいたま市長清水勇人様、松風花月流家元高野楓石様、蕉風流家元小林蕉園様他約二百名の参加者がありました。

- 八雲清雅会 石井清雲
- 静風流 中谷光壽
- 和楽会 齋藤芳恭



埼玉県神社庁主催 「神主さんと神社を学ぼう！」



御朱印帳作り



祓詞浄書体験



越谷市「神明囃子連中」



版木刷り体験



神話カレンダー原画展



神楽舞奉奏



境内案内



神話読み語り



雅楽奉奏



神道講座 武田先生



神道講座 木村先生



神道講座 岡田先生

三月二十四日、境内にて埼玉県神社庁主催の教化事業「神主さんと神社を学ぼう！」が行われました。境内案内、神話カレンダー原画展、越谷市「神明囃子連中」、神楽舞・雅楽の奉奏、声優の中山さら氏による神話読み語り、御朱印帳作りや祓詞浄書体験、版木刷り体験などを行いました。また共催でクラブツーリズムによる「神道入門講座(埼玉県神社庁武田淳参事)」、「斎宮・斎王とは何か?(國學院大學研究開発推進機構助教木村大樹先生)」、「一の宮とは何か?(國學院大學名誉教授岡田莊司先生)」の講座が開かれました。



似顔絵コーナー



盆栽村の各園の盆栽展示



和傘の参道



三三新幹線

同日開催  
 「氷川マルシェ」  
 「埼玉中央青年会議所事業」

同日開催として参道では大宮のグルメが集まる『氷川マルシェ』を開催、十五店舗が出店致しました。埼玉中央青年会議所会員の皆様は参道石畳に日本の和傘を設置する「和傘の参道」、二次元コードを用いた「スタンプラリー！大宮マスタークイズ」、鉄道のまちブースとして二の鳥居近くで「ミニ新幹線(協力：JR東日本)」を走行、境内では盆栽ブースとして「盆栽ワークショップ(協力：大宮盆栽美術館)」開設と盆栽村の各園「藤樹園、清香園、芙蓉園、蔓青園、松雪園、九霞園」の盆栽展示、漫画ブースとして「似顔絵コーナー(協力：大宮漫画会館)」などが催されました。



(1段目左より)氷川ブリュワリー／氷川の杜YAKUMO／玉進／木下製餡／かのうや  
 (2段目左より)台湾茶房e-one／喜多山製菓／SidiBou／かどや／FUCURAMU COFFEE ROASTERY  
 (3段目左より)YUMMY／レストランテオガワ／okuda.ham／Wayo kebab／石井まさるのお花屋さん

氷川参道の木々の移り変わり



昭和初期の杉並木の参道  
『氷川の杜を訪ねて』より



江戸期の松並木の参道  
『武蔵国一宮氷川神社宮中絵図面』より

趣の異なる参道であったと想像されます。

現在、2kmの参道両脇には約六五〇本の高木があり、その65%はケヤキが茂っています。昭和九年につくられた新民謡「大宮をどり」には「並木十八丁 鉦杉つづき」と唄われるほどの杉並木がありました。江戸幕府の役人の村尾嘉陵は『中山道大宮紀行(文政二年：一八一九)』の中で、境内の様子とともに参道には松や杉が空も見えないほどに茂っていると綴っています。



現在のケヤキ並木の参道



写真提供：朝霞市教育委員会



**(溝沼)氷川神社**  
鎮座地 朝霞市溝沼  
六二二二一  
獅子舞 朝霞市指定無形文化財。  
四月、十月の第一週の日曜日に奉納。



写真提供：戸田市立郷土博物館



**(下戸田)氷川社**  
鎮座地 戸田市中町  
一八七  
獅子舞 戸田市指定無形民俗文化財。夏祭の七月十五日と秋祭の十月十五日に近い土日。



写真提供：和光市企画部秘書広報課



**氷川八幡神社**  
鎮座地 和光市下新倉  
三二二三三  
獅子舞 和光市指定無形民俗文化財。十月中旬の秋祭に奉納。

全国に約二八〇社ある氷川神社の分社、その中から獅子舞の奉納がある分社を御紹介致します

分社紹介



五月、六月の行事・催事のご案内



・日程 五月二十四日(金)  
二十五日(土)  
・会場 舞殿

第四十三回 大宮新能

お問い合わせ先  
(公社)さいたま観光国際協会  
048-647-8339  
(土・日・祝休)



・日程 五月三日(金・祝)〜五日(日・祝)  
・会場 舞殿(協力会場)  
大宮駅東口銀座通り(三日のみ)

おのみや盆栽春まつり

お問い合わせ先  
さいたま市商業振興課  
048-829-1364  
(土・日・祝休)



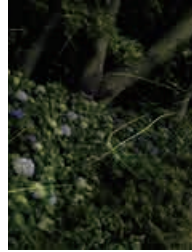
茅の輪守  
大・小  
各1,000円

6月22日より  
授与開始です



・神事日程  
六月三十日(日)  
午後二時〜  
齋場 舞殿

夏越大祓の御案内



氷川マルシェ  
同時開催

・日程 放生祭 六月八日(土)  
鑑賞会 六月八日(土)  
九日(日)  
・放生祭齋場 舞殿  
鑑賞会会場 本殿西側水路、蛇の池

螢放生祭及び鑑賞会

第三十号は七月十五日発行予定です



特別紙朱印  
茅の輪くぐり 6/22〜



特別紙朱印  
螢 5/25〜



夏の特別紙朱印の他、最新のお知らせはホームページ、SNSでお知らせ致します。神楽土鈴は、諸般の事情から現在の在庫を以って授与終了する事になりました。

ホームページ

Instagram

エックス (旧Twitter)

発行 令和6年4月15日 発行所 氷川神社社務所 印刷所 株式会社 秀飯舎  
写真協力 氷川八幡神社 (下戸田)氷川社 (溝沼)氷川神社 宮野信昭 中村写真館 工藤裕之  
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>